

大阪・関西万博の 成功に向けて



公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
事務総長 石毛博行

巻頭言

大阪・関西万博が来年4月13日に開幕します。開幕まで半年を切り、会場の建設も着々と進んでいます。万博のシンボルで世界最大級の木造建築物である大屋根リングもつなかりました。9月にはイベントカレンダーを公表し、今月13日からは来場日時予約も始まりました。来春にはいよいよ万博が始まると実感し、楽しみに感じている方も多くいらっしゃると思います。

1851年にロンドンで始まった万博は、常にその時代を反映する人類最大の国際イベントとして継続し、「時代を映す鏡」とも言われます。「世界の今を知り、未来を考え想像する場」が万博です。頻発する紛争、気候変動や環境問題等で「いのち」を取り巻く環境が年々厳しさを増す中、テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を掲げ、「多様でありながらひとつ」という会場デザインコンセプトの下、分断から世界をつなげる大阪・関西万博の価値は更に高まっています。

大阪・関西万博には既に161の国・地域と9の国際機関が参加を表明済です。この数は日本の万博史上最多で、1970年大阪万博の2倍を超えています。パビリオンを見るだけでなく、会期中はほぼ毎日、公式参加国のナショナルデーが行われ、各国独自のイベントが行われる等、会場はその国一色に染まります。これ程の規模で世界の今をリアルに体験できる場は、万博以外には存在しません。

また、21世紀の万博は「世界の今を知る」だけでなく、世界が一堂に会する万博の場を活かし、

「世界と共に未来を考え行動する」万博へと大きく変化しています。世界が未来に向けたアイデアや技術を持ち寄り、共に直面する課題の解決策を話しあう場になります。日本の中小企業やベンチャー、スタートアップ、といった様々なプレーヤーにも積極的に参加して欲しいと思います。また、ICT、デジタルの時代だからこそ、特に未来を担う多くの小中高生が、「公民連携による万博子ども招待プロジェクト」等を通じて万博会場を訪れ、直接肌で世界や未来に触れることができる大きな価値になると考えます。

万博会場は大阪市の夢洲ですが、「大阪・関西万博」の名前の通り、開催地だけに閉じたイベントではありません。兵庫県が進める、県全体をパビリオンに見立て、県内のSDGsの取組みを体験し学ぶことができる「ひょうごフィールドパビリオン」の取組みでは、既に200を超えるSDGs体験型地域プログラムが認定され、住民の皆さんが主体的に関わりながら地域の持続可能性を高められており、万博の機会を最大限活用した素晴らしい取組みです。万博会場内の関西パビリオンにて、「ミライパス―体験型のSDGs空間―」をテーマに県の魅力を展示することで、万博との連動性を高めて頂いています。

今回の万博を成功に導くには、地元関西の皆様のご理解・ご協力が大変重要です。機運醸成をはじめ、皆様のご来場も含めて、様々な形でこの「一生に一度」の万博に積極的に関わって頂くようお願い申し上げます。